

麻しん（はしか）患者の発生について（2例目）

横浜市内の医療機関からはしかを疑う患者について連絡があり、市衛生研究所で遺伝子検査を実施したところ、本日はしか陽性であることが確定しました。なお本件は、2月26日（水）に記者発表したはしか患者の方との関連性はありません。

保健所が患者の行動や接触者について調査したところ、周囲へ感染させる可能性のある時期に、下記の施設を利用していたことが判明しました。

当該施設を同じ時間帯に利用された方で、利用後10日前後経ってから、はしかを疑う症状（別紙）が現れた場合は、事前に医療機関に電話連絡の上、指示に従い受診してください。また、移動の際は、周囲への感染を上げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

【感染可能期間内に患者が利用した施設】

| 利用日時 | 利用施設 |
|-------------------------|--|
| 令和7年2月18日（火）午後0時30分～1時頃 | すき家 厚木長谷店 （住所：神奈川県厚木市長谷字竈堰642-3） |
| 令和7年2月23日（日）午前1時～2時頃 | 羽田空港第3旅客ターミナル 2階到着ロビー （住所：東京都大田区羽田空港2丁目6-5） |

※各施設へのお問い合わせは御遠慮ください。

現時点においてははしか患者が利用した施設等を利用して心配はありません。

患者の概要：40歳代 男性 予防接種歴：1回

経過等：2月9日 ベトナムから帰国

2月18日 発症日（倦怠感）

2月19日 発熱、下痢出現

2月23日 咳、発疹出現

2月25日 市内医療機関受診

2月27日 市衛生研究所が実施した遺伝子検査ではしか陽性判明、はしか診断・届出

【市民の皆様へのお願い】

現在、はしかは東南アジアやアフリカなどで流行しており、今回のように海外で感染し、帰国後にはしかと診断された報告例も増えています。流行地へ渡航を計画している方は、り患歴や予防接種歴を確認していただき、検査や予防接種を受けることをご検討ください。

流行地域から帰国後、体調不良がある場合には速やかに医療機関を受診し、医師の指示に従ってください。

- ① 海外渡航前は、渡航先でどんな感染症が流行しているか確認しましょう。
- ② 海外渡航前は、自身がはしかに感染したことがあるか、予防接種を受けたことがあるか確認しましょう。（上記が分からない場合）

海外渡航前に医療機関ではしかの抗体価を測定することや予防接種を受けることを推奨します。

- ③ 海外渡航後に体調不良になった場合は、医療機関に「いつ、どこへ渡航し、どんな症状が出ているか」を伝えた上で受診しましょう。

【はしか発生動向（本件を含まず）】※1 令和7年2月27日時点 ※2 令和5～6年暫定値 ※3 令和7年2月25日時点（※2,3国立感染症研究所）

| | 令和元年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 | 令和5年 | 令和6年 | 令和7年 |
|-----|------|------|------|------|------------------|------------------|-----------------|
| 横浜市 | 40 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 ^{※1} |
| 全国 | 744 | 10 | 6 | 6 | 28 ^{※2} | 45 ^{※2} | 3 ^{※3} |

【件】

【お願い】

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等が特定されないことがないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

| お問合せ先 | | |
|--------------|-------|------------------|
| 横浜市保健所健康安全課長 | 赤松 智子 | Tel 045-671-2442 |

麻疹(はしか)について

- 麻疹ウイルスによる感染症で、非常に感染力が強く、抗体がない人が感染するとほぼ100%発症します。
- 麻疹は、一度かかった人及び2回の予防接種により十分な免疫をもっている人は、発病する心配はないと言われています。

主な症状

- ・感染すると10～12日間の潜伏期間を経て、発熱、咳、鼻水など風邪のような症状が現れ、2～3日間発熱が続いた後に、39度以上の高熱と全身に赤い発疹がでます。
- ・症状が出現する1日前から解熱後3日くらいまで周りの人に感染させる力があります。

感染経路

- ・空気感染、飛沫感染、接触感染でせきやくしゃみ等の飛沫からだけでなく、麻疹患者と同じ空間にいるだけで感染します。

もし麻疹患者と接触したら？

- ・麻疹患者と最後に接触した日から21日間は毎日体温を測り、健康観察をしましょう。
- ・万が一、症状が現れた場合は事前に医療機関に連絡し、医療機関の指示に従って受診してください。移動は周囲への感染を拡げないように、公共交通機関等の利用を避けてください。

麻疹の予防方法

☑ワクチン

- ・麻疹はワクチンで予防できます。母子手帳などで接種歴を確認し、小学生以上の方で2回接種をしていない場合は、ワクチンを接種することをお勧めします。
- ・麻疹風疹混合(MRワクチン)は予防接種法で定期予防接種の対象とされています。対象となる方は、接種期間に適切に予防接種を受けましょう。

➤横浜市保健所「麻疹・風疹について」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryu-fukushi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/measles.html>

※夜間、休日の医療機関案内は、#7119、かながわ救急相談センター
045-232-7119、045-523-7119(24時間・年中無休)にご相談ください。